

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1998-11-17
No.95

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番八
徳島八十二番一六八三二
振替口座 徳島五十一番一八九三

全退教第7回

全国学習交流集会

百二十四名参加で大成功

標記の学習交流集会は四
プロ学習交流会と合同で、
坂出市五色台の国民宿舎で
十一月五・六日、四国四県
から六七名の参加を含めて
百二十四名が出席し、盛大
に開催されました。
高知県退教十九名、同高
退協(湯浅、浜田、中岡、
和田、岡崎、西森)六名が
参加しました。同集会のテ
ーマは「子どもたちの危機
を救い、憲法、教基法に基
づく教育実現をめざす運動
と全退教の役割」というも
のでした。

香川高退教の会員による
混成合唱で開会。恒例の開
会行事の後、基調報告、記
念講演があり、十五名の方
から現状報告が続きました。
高知からは竹村昭三県退教
事務局長が立ち、教育相談
活動をはじめ、様々な取組
みを報告し満場の拍手を受
けました。
夜は懇親会で賑やかに交
流しました。
第二日は六つの分散会に
別れ、活動交流、全体会に
分散会報告と幹事会のまと
めがあり有賀会長の音頭で
「団結がんばろう」を行い
正午前に閉会。土佐路のツ
ア参加組をはじめそれぞれ
れが帰途につきました。
教育相談活動をはじめ、
福祉問題、平和問題で全退
教の仲間が元気にしかも運
動の先頭に立っている模様
がうかがえ、勇気づけられ

望年会のご案内

みなさま方、お元気でしょうか。
さて今年も早望年会の季節になりました。芸能祭
として位置付けられていますので、日頃の研さんや
隠し芸をこの機会におおいにご披露ください。お誘
い合って沢山ご参加ください。

- 記
1. 日時 12月10日(木) 16時半～
 2. ところ 高知城ホール 2階
 3. 会費 5000円

私達が係です。はがき又は電話で申込んで下さい。

〆切り 12月5日

- ・窪田一郎 0888-44-0333
- ・小島真子 0888-43-3007
- ・古味忠男 0888-73-7123

高退協・「山の会」

恒例となりました新春交流の集いを下記の要領
で開催します。多数のご参加をお待ちしています。

記

1. 日時 1月5日(火) 9時40分
2. 日程 JR佐川駅集合
第1部 [新春ハイキング] 小雨決行
「佐川ミニ八十八カ所」を歩く(5時間)
第2部 [新年宴会] 4時開宴
NTT前「わだ」(駅より5分) 会費4千円
3. 担当 高退協佐川地区
池内 千雄 (0889-22-3375)
鎌倉 信吉 (0889-22-3202)
関田三七郎 (0889-22-0658)
「山の会」 坪井 幹之 (75-0998)
4. 申込み 参加ご希望の方は上記担当あて
12月25日までに申込み下さい。

を先行することは簡単では
ない。先日、ある高校で一
年生に対してごみ回収体験
学習が実施されたという記
事を読んだ。一回で身につ
くとは思えないが、この試
みが意識化の一助にはなる
だろう。▼「学力をつけ、
いかに勝ちぬくか」ではな
く「分けあつて、いかに共
存するか」の時代に対し、
退職教員として、子育ての
済んでしまった親として出
来る事は何かを探り、実践
していききたいものである。
(真)

計報

会員の小松 清先生が
三月十日に死去されまし
た。
ご冥福を心からお祈り
申し上げます。

集中豪雨の被害にあわれ
た方々に、心からお見舞い
申し上げます。
記録的な豪雨だったとは
いえ「県都水没」といえる
惨状は、開発優先の行政が
もたらす災害の危険をあら
わにしました。
しかも警報もなく、突然
おしよせた水害に、被災者
は貴重な家財や書籍を失
いました。重ねてお見舞い申
し上げます。床上浸水にあ
われた方々は次の通りです。
その他、お気付きの方があ
りましたら事務局までお知
らせください。
山北不二男、岡本竹夫、
岡本京子、徳弘傳男、池川
順子各氏、

草声老詠

力いっばい傘
を地面にたた
きつけ、自転
車に乗った少
女が全速力で
走り去った。
あとには半開
きになったビ
ニール傘が道
のまん中にころがっていた。
朝、犬の散歩に出かけよう
としたとたんの出来事であ
る。パラッときた雨に傘を
開こうとして、昨日ぬらし
たまのビニールがすぐには
は開かなかつたのではありません
かと想像したのは少しあ
のことだった。▼夕方、犬
を連れて鏡川べりに行くと、
若い人達が花火やパーベキ
ューに興じる姿をよく見か
ける。人懐っこい小型犬は
早速走り寄って「わあ可愛
い！」となげられたり、時
には肉の一片にありついた
りする。それはそれで心な
ごむひとときなのだが、次
の朝、たいていはその残が
いにおめにかかることにな
る。燃え残った花火、発泡
スチロールのバック、ビニ
ール袋……公園に設けら
れているごみ入れまでも運
ばれていない場合も多い。
環境問題で意見を求められ
このことを話したら、イギ
リス人に「若い人達だけで
はない。日本人は中高年も
そうだ」といわれて恥ずか
しかった。▼「自分が出し
たごみは自分で持ち帰る」
をきびしく躡けられたのは
山登りだった。昔、徳高縦
走をした際、疲れの故か全
員ほとんど手をつけなかつ
た朝食の雑炊を、炊事当番
として四日間リュックに背
負ったまま下山した事があ
った。ビニール袋に二重に
包んであつても洩れてくる
臭いにへきえきしながらの
山行だった。今、山ではテ
ィッシュは自然分解しない
ので使わず、トイレットペ
ーパーを持って行くのが常
識になってきた。増え続け
る登山人口に対応して、自
分の排泄物は自分で持ち帰
ることの論議まで始まって
いる。▼地球環境をいかに
守っていくかが人類を含め
全ての生物の生存を握る鍵
なのだが、あふれる「物」
に囲まれた現代社会でそれ

「寒泉寺日記」抄
坪井 幹之

九月

「四日」山の会」つどいを開く。二十四名の参加。富士国際旅行社より今野氏来高。七月の北欧ツアー、八月の奥秩父山行について総括、解団。来年の海外旅行を相談。七月のアラスカ、十月のヒマラヤの募集開始を確認。終了後、「二ニュー門田」で会食。

「十四日」一時より高退協二ニュースの発送準備。つづいて事務局会議。議題は研修旅行、機関誌のことなど。四時より拡大事務局会議。参議選の総括と高知市長選について協議。市長選については無所属・革新統一候補の植田省三氏を推薦することを確認。終了後、「竜馬茶屋」で参議選の慰労をかねた懇親会。

「二十六日」高退協読書会、よんどころない事情により欠席。六名の参加で「けものみち」の合評。次回は「太公望」

十月

「十三日」高退協事務局会議。高知市長選など当面の課題について協議。冒頭の会員の動向で水害被害の状況を交換。あわせて小松清先生の訃報に接す。たいへん遅くなったが心から哀福を祈る。

「十九日」一時、「山の会」運営委員会。二時、来年のアラスカ行きの打合せ会。

「二十五日」山の会」十月例会。網附森に登る。参加者十一名。三嶺の登山口ひかり石駐車場から入山。十一時頂上へ。快晴、登山者多し。展望を堪能、下山。

「二十七日」何カ月ぶりに「老泳会」に参加。いつもの三五〇米を試みるが、幸いにも泳ぎにおとろえなし。

神無月句会

(いさよひ月見)

鏡川、月の瀬橋周辺

吉本伸秋

五位の声遠ざかり行く無月かな

萩の木戸開け放たれし月の宿

中内みち代

潮の香の川風優し月を待つ

月影の見えず川波ゆらゆらと

小笠原さちを

わが前のわが行く影や月今宵

水害のがらんだうなる家に月



第十二回高知県

高齢者大会開催

10月29日(木)高新文化ホール、午後1時開会、町から村からの連帯で一人ぼつちの高齢者をなくそうのスローガンの下約一五〇名(高退協16名)が参加した。

山原先生の来賓挨拶に続き、基調報告、シンポジウムでは大不況の下、消費税のアップ、医療費の負担増、年金制度の改悪、超低金利などが社会的弱者である私達の生活を直撃している大変厳しい環境の中で更に問題点の多い介護保険が二〇〇〇年四月よりスタートすることが決まっております。今大会はこの介護保険に焦点を合わせ、医療・介護の現場の代表を交えたシンポジウムを企画、介護保険の内容、運営面、保険料、介護給付、地方自治体との組み合わせなどさまざまな角度から疑問点、不安、問題点がクローズアップされた。今後一人ひとりがあらゆる機会を利用して学習を深め、より良い介護制度を求めて、国や地方自治体に要求実現の広範囲な運動を起こす必要性があるのではないかと、また、大会アピールでは一九九九年の国連が定めた「国際高齢者年」に当たり、高齢者の尊厳を守り、差別を排除し、人権を保障する国連決議の趣旨を日常生活や政治の場で生かす運動の輪を更に広げて行くことが強調された。続いてお楽しみ企画としてマリリンバ、ピアノ演奏、舞踊、手品のアトラクションがあり、なごやかな大会となりました。

『老・眼・鏡』

芭蕉の風 I II III
杉本恒星 著

六〇代は「紅葉の季節」と言われた杉本恒星さんが、青春時代から生涯の師と仰ぐ松尾芭蕉について本を出されました。

日本を代表する紀行文学の傑作といわれる「奥の細道」(一六九四)は「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人なり」に始まる俳諧紀行文で世に知られるところですが、江戸末期より現代に至るまで、幾多の人々の心をとらえ、人生に影響をあたえ、生き方の支えとなったのか、芭蕉とその弟子達の関わりを、芭蕉の肉体的な魅力に絡ませ、出会いや別れ、喜びや哀しみ、孤独、わび、さびなど深いところで追求してやまない気持ちは、登場する人々への愛情あふれる心情、四季折々自然の移ろいにむける感性が、流麗な文章となつて描かれ、芭蕉であつて恒星さん自身である様な錯覚を覚えました。

芭蕉は五才で世を去りましたが、秀れた弟子を数々育てて服部土芳・向井去来など世に作品を残し師との関わりが興味深く、共にめざす道は「風雅の誠」としての俳諧の世界でしようか。俳諧の世界など全く分からない不勉強な私は、文中全然意味の分からない箇所がいっぱいありましたが、無駄な装飾を削ぎ落とし、切り除き、濃縮された短い一言が大きい意味を語らせる日本語の美しさにも魅せられて、ついつい頁をくつてしまいました。

人生は旅だとすれば、紅葉の季節を歩む年令となり、老いをどう迎えるか、全ての人の関心事ですが、この本を時々開いて、心安らかな日々を送れたらと思われ本でした。

杉本恒星さんは、どなたも存じの元高教組委員長で、あの激動の時代をリィーダとして活躍された方ですが、反面にいつも芭蕉がその胸中に居られたのでしよう。素晴らしい先輩に学べることは幸せです。
西田令子

秋晴れの中の

快適小旅行

十一月十二、三日恒例の研修旅行、鳴門・淡路に行つて来ました。今回、突発的なことでとり止めにされた方が出たものの、参加者が三十名の大会にのりました。会員の約一割で大成功と云えると思います。

南国ICで三十人目の野島幸代さんが乗られ、女性十二名、男性十八名が揃つたのが九時、例年よりややゆっくりとした出発でした。

初日の見学は二ヶ所、はじめは藍染工芸館、ややニヒルな感じで、伝統を守ろうという情熱がひしひしと伝わってくる人の型紙彫りから、染めあげまでの懇切な説明がありました。「藍は生きもの」という実感を味わつたことでした。

次に訪ねたのは大谷焼の窯元「矢野陶器」。ここでも丁寧な説明を受けました。六段の登り窯の下二段を耐火煉瓦で改装し今も使っています。大半がガス窯に変えている現在、伝統技術へのこだわりを感じました。

宿舎は洲本の関空の灯が見える温泉ホテル、夕食時の宴では、海の幸を満喫、十八番の数々は、マジック歌、踊りで女性が完全に男性を圧倒した一刻でした。

二日目、明石大橋の根元で橋を望みし野島断層保存館で大震災の爪跡を生々しく見学しました。

次いで淡路人形座、「傾城阿波鳴門」のさわりを見学人形使いもさること乍ら、三味も語りも若いのになかなかのものでした。

最後は今春オーブンの大



塚美術館、名画でおなじみの作品は殆ど網羅されているようです。今回は下見程度でなにかたづねたいというきになりました。

帰りの車中、私学出身の西込氏の高退協入会があり、会員拡大も出来、めでたい小旅行となりました。

(担当)



旅のしおり



「第七回高知新文学の旅」で長崎へ

中江兆民の足跡を訪ねて、長崎市へのツアー一行28名は10月31日高知空港から福岡空港へ。直ちに観光バスに乗り、一路佐賀県の吉野が里遺跡へ。古代の文化の跡を見学して長崎へ向かう。まず、鳴滝町のシーボルト記念館と鳴滝塾の跡地を見学後、宿泊ホテルの傍の平和公園を訪ね、被爆記念碑に黙祷。平和の尊さを心に刻みつけた後、ホテル着。しつぱく料理に舌つづみを打ちカラオケやダンスで楽しい宴会となりました。

二日目は英語伝習所跡地を訪ねた後、風頭公園に行き、若き日の坂本龍馬の銅像や司馬遼太郎の文学碑の前に立ち幕末の動乱を偲びました。つづいて、中江兆民のフランス語の教師「平井義十郎」の墓地に参詣し、花や線香を供え冥福を祈り

下駄札賛

坪井 幹之

最近、人気がなくなっているゲタですが、これは、足の健康、足腰の強化、さらには全般的な健康増進のために、とても役立つ道具となります。まず、歩くときには足指に力がいります。足指で鼻緒をしつかりつかんでいないと脱げてしまいますし、足指をひらいて踏んばらないとよろけてしまいます。靴をはいているときはとじたままでは足指をひらいて、力をいれると、足指の鍛錬になりますし、さらに足腰の強化につながるのです。ゲタというのは二本歯で不安定ですが、これがまた健康効果を高めます。ゲタを



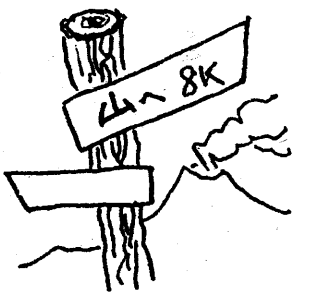
ました。「東洋のルソー」と呼ばれた兆民のフランス文化への眼を開かせた平井義十郎の墓はご子孫が山梨に在住しているため、雑草に埋もれており、長崎市長宛にツアー一行の名において「墓地の整備管理」の陳情書を提出しました。

その後、「亀山社中」後の土佐海援隊の宿舎を訪問し、龍馬由緒の品々を見学。二百年近く経た小屋が「守る会」の人々によってよく保存され、通路の坂道が「龍馬通り」と名付けられ整理されているのを目のあたりにし、郷土の英傑が大切にされていることに誇りと歴史の重みを感じさせられました。

このツアーの一行の団長は門田豊先生で、岡林清水会長亡き後の責任者として大いに活躍されました。

一行はグラバー邸を見学した後、空路異国情緒と歴史に富む「東方の門」長崎市を離れました。高退協からは、窪田充治、井本不二男、岡崎清恵の三名も一行の中にいました。

(岡崎)



はいて歩くとよくわかりますが、姿勢をよくしていないと、よろけたりころんだりしますから、自然に背筋がシャンと伸びてきます。姿勢をたもつために、足や腰、背中などの筋肉が強化されます。これが腰痛やひざ痛の予防にも役立つ、実際に腰痛治療に利用している整形外科医もいるほどです。……

これは、ある週刊誌に載ったもので、以前から下駄を愛用している私にとっては、わが意を得たりの文章である。昨年のヒマラヤ・トレッキングで、現地のシエルパ頭ダワさんに歩く姿をほめられたことを思い出す。(いくつになってもほめられると嬉しいものである。)この素晴らしい道具を使って、一時間前後、観月坂団地と久万川畔のニコースを交互に散歩することを日課としている。寄る年波には勝てず、しんどい時もあるが「倒れてのち止む」の精神で、下駄とともに頑張るつもりである。

これから下駄を使ってみようという方に一言。足によろけのきている方は使用を避けましょう。転んでは元も子もありません。次に材質ですが、キリは軽くて履きよいですが長距離にはむきません。ノブが一番よいようです。最近、下駄が見直されて市場に出回るようになってきました。散歩にむいたものを採るのは一苦労です。高知では日曜市でなんとか手に入れることができます。参考にして下さい。



高教組便り



しばらく欠号になっていた「便り」、今回は一冊の本「海を越えたボランティア活動—ラオスに学校を贈った生徒会—」(岡崎伸二、市商教諭)を取り上げる。「市商」の実践は「メコン川を渡った高校生たち」(84号)で紹介した。改めて単行本での出版の内容は「プロローグ—これが私たちの贈った学校—」すべし文化祭からはじまった「II 国際援助のための株式会社/III 高校生が貿易—いざ、ラオスへ/IV ラオスまでの10年間—生徒会の歩み/エピローグ—地域に根ざし世界と結ぶ学校をめざして」となっている。

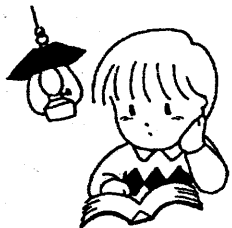
この目次内容で概要は理解頂けると思うが、退職世代から云えば第二世代である一九五七年生まれの岡崎氏が81年、市商に商業科教師として採用され同時に生徒会顧問に就任された17年間のまとめである。同時に「一番つらかったのが、過去の実践を書いているのではなく『今』『現在』を書いているという恐怖感である」(同書「あとがき」)と述べているように、さらに「現在から未来へ」の筋書きのないドラマである。ラオスに学校を贈る取り組みは94年からすでに5年間続けられ4校が建設され、そこで学ぶ小学生たちから一二〇点の絵画も贈られて、今年の物産展に飾られている。

この取り組みの意義を考えてみたい。ここしばらく続いた進学と偏差値学力の最優先の時代では、普通校や近代5教科目はメジャーであり、小規模校、実業校や実業科目とりわけ商業科はなんと

く「マイナー」であった。私も商業科に身を置いてきた者として、さらに農業・工業は物を生む、家庭科も生活文化を支えるその実習に意義を認め、「商業の実習」の意味を問い続けてきた一人である。金を出して実際に株式会社を作る定款発起人、創立総会あり、実際ラオスに買い付けに行き(仕入)、ファズや文化祭で売り(販売)、収益を上げ、それを決算報告し、ラオスの子供たちに学校を建て返す。そこで生徒達は「学校は、ラオスにではなく自分たちの心に建てた」と学びながら成長している。まさに、「目から鱗のとれた」思いである。

次にこの取り組みは本校がかつて30年前に取り組んでいた実践があつたことを先輩教師の助言と古い資料から学びながら作り出しているところである。が、氏が「あとがき」で「職員会で決定したことを生徒たちに指導するという形態と違い、生徒からすべてがはじまるので、学校の教職員の方々とPTA、校友会などの、生徒会活動にたいする深いご理解と援助なしには成り立たなかつた」と述べるように、学校長をはじめこれらの関係の方々や吉田和子先生の実践を位置付ける一文が欲しかつた。再版では「洛陽の紙価をさらに高める」ためにあえて蛇足を付ける次第である。

梅原憲作



植田省三氏及ぼす

高知市長選



相撲三知識 二十九
林 勤
大相撲を支える人々(3)
親方(3)
若乃花が横綱に昇進したので、前々回と前回は急拠横綱の土俵入りについて述べたが、また、親方の話に戻ります。

○親方名跡(親方株)に関する新制度

親方株を取得できる資格や、親方株の取り扱いが大きく変つた。主な改正点を挙げてみると、



高知市長選は10月25日投票の結果、植田省三氏が二万票近くを獲得しましたが及びませんでした。今回の市長選では「革新高知市政を継続、発展させる各界連絡会」が無所属、革新統一候補に植田氏を決定し、これをうけて高退協は拡大事務局をひらき「政支の原則を尊重しつ、政治の革新と憲法改悪阻止、日米安保体制打破の革新統一運動に参加します」という総会の方針にそい、植田氏の推薦を決定しました。

そして臨時の高退協ニュース(市長選特集号)を高知市の会員に配布するとともに、選対をもうけて植田氏への支持を訴えました。その結果当選には及ばなかつたものの、市民病院の統合阻止や大型プロジェクトのムダを削って防災対策を充実する政策を訴えて論戦をリード、松尾市政の問題点を明らかにして市政転換の出发点としました。

一、親方株を取得できる資格
これまで「幕内1場所全勤か、十両連続20場所以上、或は通算25場所以上」であつたが、今回の改正で「①横綱、大関、②三役(関脇、小結)1場所以上、③前頭通算20場所以上、④前頭、十両通算30場所以上」となつた。今までよりも厳しくなつた。

二、親方株なしで引退した場合
①横綱は五年間、現役名で年寄として協会に残ることができ、②大関は三年間、現役名で年寄として残ることができ、③前頭一の②、③、④を満たしている力士は二年間、現役名で準年寄として残ることができ、但し定員は十名。

※右の①は改正前と同じであるが、②と③は新しく設けられた。親方株の無い場合には、引退と同時に「協会を退職するか、空き株を探るか」に迫られていたが、この新しい制度により、引退後の対応に余裕ができた。因みに、十一月一日現在で早くも三杉里、小城乃花、久島海の三力士が準年寄になつている。

三、親方株の取り扱いで改正された点

①親方株を複数所有すること、貸借することは今後認めない。但し、現在所有している複数株と、既に貸借関係にあるものは、五年間これを認める。
②現役力士が親方株を取得することは今後認めない。但し、既に所得しているものは、そのまま認める。
③年寄株の所有者と使用者の氏名を公表する。
※前記①と②により、引退力士への残り株が多くなる。また、③により、不明瞭だと言われていた親方株の譲渡、売買の実態が明らかになる。

四、新制度の施行は平成十年五月一日である。

